

## クロミドリシジミの飼育法

作成：2006.5.14 仲西周二



倉地正氏 撮影

### 全般

本種はミドリシジミの仲間でありながら他種と異なり、♂の翅表が緑色とならず地味な褐色の中に独特の光沢を持ち、それが返って魅力となって根強い人気を有する。なかなか困難ではあるが母蝶を採集できれば500卵などと多数の採卵が可能とも言われ、飼育の対象としても人気が高い。

ここでは卵以降の飼育法について述べるが、冬季の卵の管理、春の孵化の要領などは他のゼフ類と同様で良く、ゼフ共通編を参照願いたい。

### 孵化～2齢幼虫の飼育

この段階で注意すべきは、食樹に必ずクヌギを使用することである。クロミドリシジミはアラカシで飼育可能などとの記載を見かけるが、自身の経験ではアラカシで飼育できるのは3齢以降に限定され、例えば初齢からアラカシを与えた場合では成功した経験が無い。



クヌギの花芽



クヌギ花芽と2齢幼虫

クヌギの芽吹きはコナラやアラカシより早い場合が多く、特に花芽が先行して芽吹くので、花芽を好む幼虫にはこれを使用するのが好適である。しかし残念ながらクヌギの花芽はもちがあまり良くない。直ぐに茶色味を帯びて幼虫が摂食を嫌がるので、こまめに新しい物と入れ替える必要がある。写真のように比較的太い枝についた花芽は中でももちが良いように感じ愛用している。写真程度の芽吹き状態以後が飼育に好適であり、もっと早く飼育を始めた向きにはまだ芽吹かない花芽の外皮を剥いて使用する場合もあるが一般的でない。

クヌギは何処にでもあるが比較的高木が多く、且つ、花芽は幼木には付かないため、花芽の入手が比較的困難である。普段から自宅周辺で入手し易く低い位置で花芽を付けるクヌギの木のマップを記憶するように努めている。

### 3齢幼虫以降の飼育

クヌギで飼育を続けることは勿論可能であるが、私は入手が容易なアラカシを好んで使用している。羽化成虫の出来栄えにも有意差はない。



アラカシを食べる4齢幼虫